

■「マリンインフォマティクス研究機構」を開所しました。



特集

令和8年4月
3学部3学科体制へ再編します

令和8年4月に現在の2学部7学科を3学部3学科体制へ再編します。

学部	学科	学部	学科	学系・コース
理工学部	機械工学科	理工学部	理工学科	機械・航空・ロボット工学系
	電気電子工学科			電気電子工学系
	物質生命科学科			物質生命科学系
	建築学科	建築・都市デザイン学部	建築・都市デザイン学科	建築学系
	土木工学科			都市デザイン学系
情報学部	コンピュータシステム学科	情報学部	情報学科	コンピュータコース 人間情報コース クリエイションコース 社会情報コース
	情報デザイン学科			

学部学科再編に寄せて
— 分野横断的な学びを
可能とする教育体制へ —



学長 木村 雅和

このたび静岡理工科大学では、学部・学科の再編を通じて、学生一人ひとりが自らの関心や将来像に応じて、より柔軟に学びを選択できる教育制度の構築を進めております。

従来、本学では入学時に選択した学科に卒業時まで所属し、原則として学科の変更は認められておりませんでした。しかし、社会の変化が加速する現代においては、学生が自らの進路を柔軟に考え、自分の可能性を広げながら専門性を深めていける教育環境が、これまで以上に重要になっています。こうした時代の要請に応えるべく、今回の再編では「学科」制度を「学系」制度へと転換し、2年次進級時に同一学部内での学系変更を可能とする新たな仕組みを導入いたします。

この改革により、学生は入学後の学びを通じて自身の関心を深めながら、より自分らしいキャリア形成に向けた選択が可能となります。これまでの「縦割りの」専門教育の枠を超えて、学生が自らの関心や将来像に応じて多様な知識やスキルを

組み合わせて学ぶことを支援する体制へと進化することで、専門性を磨きつつも、関連する周辺領域を視野に入れた幅広い知識を習得ができる環境を整えてまいります。

さらに、学部学科再編と歩調を合わせて、カリキュラムの改変にも着手いたします。その中心となるのが「アントレプレナーシップ（起業家精神）教育」の導入です。これは、文部科学省が提唱する「社会課題の発見と解決に挑戦する力」を育む教育であり、単なる起業家育成にとどまらず、自ら考え、行動し、新たな価値を創造する力を涵養することを目的としています。

“ものづくりの街・静岡”の未来を担う人材育成に向け、学生一人ひとりが秘めた可能性を最大限に引き出す、しなやかで強い教育の展開に努めてまいります。

学部・学科再編の主なポイントは、次頁

遠州灘

古代インドに由来する「象と視覚障害者」の寓話は象を知らない6人の視覚障がい者が、初めて象に触れた話です。鼻に手を置いた人は「太い蛇のようだ」、耳に手を置いた人は「扇のようだ」、脚に手を置いた人は「木の幹のようだ」、体に手を置いた人は「壁のようだ」、尻尾に触れた人は「縄のようだ」、最後に牙に触れた人は「槍のようだ」と言いました。この寓話は、いかに真実の一部しか見えていないかを物語っています。したがって、特定の状況について多様な視点からデータを収集し、全体をより深く理解する重要性を示しており、部分的な知識しか持たないことの危険性を示唆しています。学問でも社会でも多様な視点と総合理解が重要性です。(M)

学部・学科再編の主なポイント

①2年進級時、学部内で学系間異動が可能に

- フレキシブルな選択により「自分らしい」キャリアプランが実現可能に
- 関連する周辺領域の専門知識を身につけ、実践力のあるエンジニアを目指す

②建築学科と土木工学科を統合し、新学部「建築・都市デザイン学部」を設置

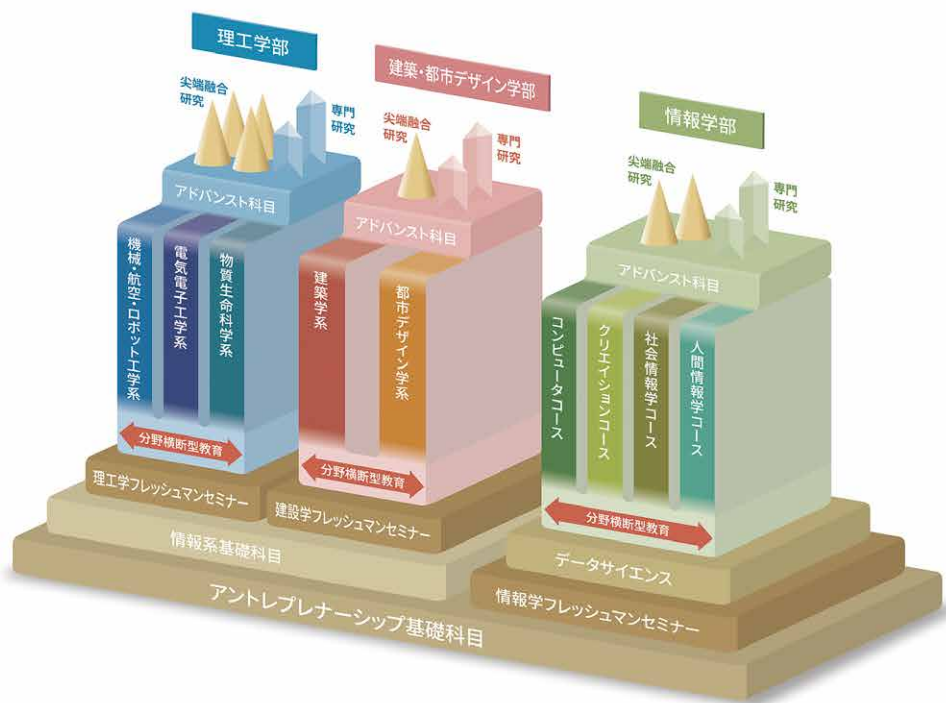
- 学部内で双方の学系の授業履修を必修化、全ての学生が体系的な知識を習得
- 学系の垣根に囚われない多様な進路選択が検討可能に

③情報学部2学科を統合し、2年次からのコース選択制度を導入

- VRやメタバースなどの先端領域を研究対象とするコースを新設

④全学部を対象に起業家精神教育を溶かし込んだカリキュラム編成へ改変

- 従来のカリキュラムにアントレプレナーシップ(起業家精神)のエッセンスを追加
- 学生自ら企画を立ち上げた「学生活動プロジェクト」は、学内の助成金制度を利用可能



人事異動(令和7年4月1日付採用)



建築学科 講師
E Ridengaoqier
(エ ルドンオチル)

専門分野: 建築材料、非破壊検査
略 歴: 三重大学大学院工学研究科システム工学専攻博士課程後期課程修了後、東京理科大学工学部建築学科助教等を経て、本学講師に就任。
趣 味: 音楽、サッカー、旅行



コンピュータシステム学科 教授
渡邊 志

専門分野: 感性情報処理、観光情報、情報教育
略 歴: 千葉大学工学部を卒業後、静岡県公立高等学校教諭を経て、東亜大学大学院総合学術研究科情報システム専攻博士課程修了。その後、日本大学生物資源科学部国際共生学科教授等を経て、本学教授に就任。
趣 味: 色々乗り物、色々鑑賞、あちこち歩行



コンピュータシステム学科 講師
田村 和広

専門分野: 機械学習(強化学習)、ゲーム理論
略 歴: 静岡大学大学院総合科学技術研究科修了後、スズキ株式会社に入社。同社で開発業務に従事しつつ、並行して静岡大学で博士号を取得し、本学講師に就任。
趣 味: 筋トレ、将棋、ドライブ



情報デザイン学科 教授
兼子 一

専門分野: 社会学、社会調査論、エスノメソドロジー
略 歴: 大阪市立大学大学院文学研究科社会学専攻後期博士課程単位取得満期退学後、神戸医療未来大学人間社会学部人間社会学科准教授等を経て、本学教授に就任。
趣 味: フィールドワーク、オタク文化鑑賞



情報デザイン学科 講師
津田 裕之

専門分野: 認知心理学、環境認知科学
略 歴: 京都大学大学院人間・環境学研究科博士課程修了後、同志社大学心理学部助教を経て、本学講師に就任。
趣 味: ゲーム、美術、心理学

お疲れ様でした(令和7年3月31日付退職)

機械工学科 教授	増田 和三
建築学科 教授	太田 達見
建築学科 教授	丸田 誠
コンピュータシステム学科 教授	幸谷 智紀
コンピュータシステム学科 教授	櫻井 将人
情報デザイン学科 教授	秋山 憲治
情報デザイン学科 准教授	紀ノ定保礼

役職者紹介(令和7年7月1日現在)

【大学評議員】

学長	木村 雅和
統括副学長(研究推進担当)	小澤 哲夫(教授)
副学長(教育担当)	野崎 孝志(教授)
副学長(入試広報・学生募集担当)	山崎 誠志(教授)
理工学部学長	十朱 寧(教授)
情報学部学長	富田 寿人(教授)
機械工学科長	三林 雅彦(教授)
電気電子工学科長	美馬 一博(教授)
物質生命科学科長	齋藤 明広(教授)
建築学科長	崔 琥(教授)
土木工学科長	中澤 博志(教授)
コンピュータシステム学科長	芦澤 恵太(教授)
情報デザイン学科長	小栗 勝也(教授)
事務局長	深澤 直人

学生部長	國持 良行(教授)
図書館長	後藤 昭弘(教授)
YES長*兼	
やらまいか創造工学センター長	黒瀬 隆(教授)
工作センター長	吉見 直人(教授)
先端機器分析センター長	宮地 竜郎(教授)
情報教育研究センター長	足立 智子(教授)
教育開発センター長	足立 智子(教授)
国際交流センター長	谷口 ジョイ(教授)
防災教育センター長	中澤 博志(教授)
総合技術研究所副所長	南齋 勉(教授)

※YES: やらまいかエディケーションサイト

研究者に 聞きました

先生、どうして研究者になったの?



【氏 名】 谷口 ジョイ
【研究室名】 社会言語学研究室
【所属職位】 情報学部 情報デザイン学科 教授
【出身地】 米国カリフォルニア州
【簡単な経歴】 東京大学大学院総合文化研究科言語情報科学専攻を単位取得満期退学後、博士号取得(学術)。梨花女子大学(ソウル)、マラヤ大学(マレーシア)、静岡英和学院大学などを経て、2019年に本学に着任。
【趣 味】 野球観戦、ヨガ、山歩き、ロードバイク
【座右の銘】 横浜優勝
【愛読書】 A YEAR IN PROVENCE、『舟を編む』
【ペット】 柴犬、ヤギ



井川でのフィールドワーク

このコーナーは、静岡理工科大学で働く先生がどんな人なのか、研究者の道に進んだ理由、どんな研究をしているかなどを紹介していきます。
今回は、情報学部 情報デザイン学科の谷口ジョイ先生にお話を聞きました。

気づけば言語学者に

研究者になるまでの経緯を400字でまとめるように言われました^[1]。この波瀾万丈の半生を、原稿用紙1枚に綴るなど、無理難題すぎます。この年齢(=49)の女性研究者としては珍しく、私には子どもが3人いますし、32歳で大学院(静岡から東京まで新幹線通学)に通い始め、博士号を取ったのは41歳の時です。もうこれだけで、ただ事ではないことが伝わるのではないのでしょうか。それに、このような益体(やくたい)もないことを書いているうちに、もう200字ほど消費してしまいました…。とはいえ、やらねばなりません。X(旧ツイッター)で鍛えられた短文作成能力で応戦するとしましょう。

私の父はアメリカ人、母は日本人。神奈川県南部の田舎町で育ちました。子どもの頃はよく「日本語の発音が変だ」と笑われていました。そのせいか私は、言語が介在しない、世界共通の数式や図形というものに魅了され、大学では数学を専攻しました。そこから紆余曲折あり、言語学に転向して今に至る、というわけです。訳がわかりませんよね。

フィールドワーカーに、俺はなる!

現在、静岡市北部の井川地域で話される危機方言の記録・保存・継承に関する研究をしています。学生の頃、「フィールドワーカー」なる語を耳にし、「何それ、カッコいい!」と憧れを抱きました。そして、気がつけば、調査地に足を運び、実地調査を行う研究者になっていました。

かつて車道がなかった井川は、辿り着くまでに2日を要した山間地です。「言語の島」と呼ばれる場所で、周囲とは異なる方言が話されています。奈良時代の日本語も残る貴重な方言ですが、話者は激減しています。井川方言を後世に伝えるため、地域の方々と協働し、研究を進めています。

[1] 字数が足りないという私の悲痛な叫びが聞き入れられ、多少オーバーしてもよいということになりました。
[2] 社会不適合者を表す新語。

と、ここまでの文章に悲痛な叫びを添えて原稿を提出したところ、担当の方から「せめて、なぜ言語学に転向したのかだけでも書いてほしい」と丁寧なメールをいただきました。本来であれば、「おい! 肝心の内容、全部すっ飛ばしてんじやねえか!」と怒鳴りつけたかったはず。その忍耐強さには感服の念を禁じ得ません。

私が入学した地元の国立大学には、留学生が多く在籍していました。外国人の風貌をしながら、日本語を流暢に操る私は、頻繁に彼らから日本語に関する疑問を投げかけられました。「駅前にタクシー、いるかな」と言えば、「いる? タクシーは物だから『ある』じゃないの?」といった質問が飛んできます。普段何気なく話している日本語の仕組みが知りたい。一私は大学に通う傍ら、日本語教師養成講座なるものにも通いました。そこで出会ってしまったのです。数学よりも圧倒的に面白い「言語学」という学問に。

ここまで書いて、「なぜ研究者になったのか」という本題にまったく触れていないことに気づきました。「そこに研究課題があるから」—ジョージ・マロリーばりに答えたいところですが、社不^[2]なので、他にできそうな仕事なかった、というのが正直なところ。しかし、それだけではありません。ことば、ひいては「人間そのもの」に並々ならぬ関心があり、探究心の旺盛な私にとっては、研究者こそが天職だと思ったからです。考えてみてください。消えてなくなりそうな言語、そこに包摂された文化や世界観を次世代に継承していくための研究なんて、楽しいに決まっています。さあ、あなたも今すぐ言語学者になろう!



子どもたちと博士号授与式に出席

高校生ものづくり・ことづくりプランコンテスト2024最終審査会

2月15日(土)、高校生の考える「こんなモノがあったらいいのに」や「こんなコトをやってみよう」というアイデアを競う、「高校生ものづくり・ことづくりプランコンテスト2024最終審査会」を浜松市のFUSEで開催しました。

今回で12回目の開催となった本コンテストには、静岡県内外の56校の高校から365件の応募

がありました。最終審査会に出場した5グループによるプレゼンテーションの結果、香川県立観音寺第一高等学校の山下鈴乃さんが考案した、「あなたの推しの孫にして! 他孫つちが作る地域の繋がり 超高齢化社会における認知症予防と待機児童問題の解消に向けて」が最優秀賞に輝きました。



令和6年度公開シンポジウム

3月20日(木)、「建築が分かると静岡がもっと楽しくなる! ~歴史的建築物から現代建築まで、見方を学ぶ~」をテーマに、本学で公開シンポジウムを開催しました。第一部では「様式とかたちから建築を考える 静岡編」のテーマで横浜国立大学大学院 都市・イノベーション研究院 特別研究教員の菅野裕子氏が、第二部では「街なか美

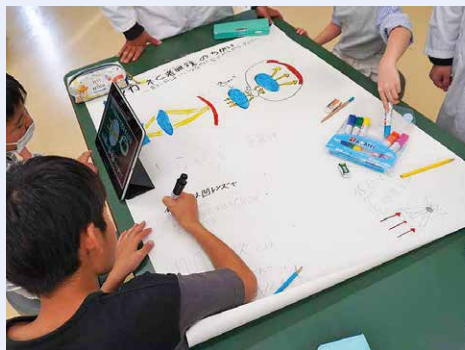
術館として静岡の現代建築を楽しむ」のテーマで東北大学大学院 工学研究科・工学部教授の五十嵐太郎氏が講演を行い、建築学科 田井幹夫准教授がコーディネータを務めパネルディスカッションを行いました。当日は97名が参加し、「普段の町歩きから建築を注目したいと思いました」などの感想をいただきました。



第10回春休みたいけん研究室

3月28日(金)、本学で新小学2~6年生対象に第10回春休みたいけん研究室を開催しました。本学学生団体のお理工塾応援隊のメンバーが講師となり、「台車の動く仕組み」(新小学2~3年生)、「レンズの制作実験」(新小学

4年生)、「指紋採取実験」(新小学5年生)、「DNA採取実験」(新小学6年生)のテーマでそれぞれ実験講座を行いました。当日は74名が参加し、「家に帰ってまたやってみよう!」などの感想をいただきました。



入学式

4月2日(水)、令和7年度入学式を挙行し、学部生371名、大学院生34名、3年次編入生3名が入学しました。式典は保護者出席のもと、全学部・大学院の入学生が一堂に会して開催しました。入学者一人一人の名前が読み

上げられた後、機械工学科の皆川一真さんが「社会に貢献できる人間になるよう勉学に励み、学生生活が実りあるものとなるよう努力し続けます」と宣誓を述べました。



高校生対象 まちあるきで学ぶ防災in浜名湖

6月1日(日)、本学防災教育センター連携の体験講座「高校生対象 まちあるきで学ぶ防災in浜名湖」を開催しました。令和5年度から開始したこの防災ワークショップは今年で3年目を迎え、今回のワークショップには11名の生徒が参加しました。中澤博志センター長がメイン講師を務め、ワークショップでは新居関所周辺

の道路や水門などを観察し、日頃から目にする当たり前の景色がどのように成り立っているのかをフィールドワークとグループワークを通じて考えました。参加者からは「自分が住んでいる街についてもチェックしてみようと思いました」などのコメントがあり、防災やインフラメンテナンスについて理解を深める機会となりました。



令和7年度第1回公開講座

6月8日(日)、「いまとこれからのくるま選び」をテーマに令和7年度第1回公開講座を本学講義室で開催しました。自動車評論家の両角岳彦氏と機械工学科の野崎孝志教授が講師を務めた今回の公開講座は、聴講者と講師との双方向のコミュニケーションを織り込んだ形式で進行し、リアルタイム投票や質疑が可能

ツールを活用して会場の声を反映しながら「クルマを知り、クルマを選び、クルマと暮らす」と「『走る』を超えてゆくクルマたち一次世代モビリティの未来予想図」の2つのテーマでトークセッションを行いました。当日は105名が参加し、「車好きなので、とても興味深い内容でした」などの感想をいただきました。



Pick up ストリート/

マリンインフォマティクス研究機構が開所しました

2024年7月に、静岡市・静岡県が共同で内閣府に申請した「駿河湾・海洋DX先端拠点化計画」が「地方大学・地域産業創生交付金事業」に採択されました。これを受けて、2025年4月1日、本申請に関わった本学と静岡大学は両大学で「マリンインフォマティクス研究機構」を共同設置しました。「マリンインフォマティクス」とは、海洋(Marine)と情報(Informatics)を融合した新しい科学技術です。

静岡理科大学では、「ビッグデータに基づく駿河湾の新たな健全性指標の創出」「環境ゲノミクスによる駿河湾水産資源の見える化」の海洋情報科学工学分野の先端研究や、海洋生物生態科学工学分野および海洋産業科学工学分野の先端研究にも取り組んでいきます。

また、6月19日(木)に静岡駅前キャンパスで開催した「駿

河湾・海洋DX先端拠点化計画 キックオフセレモニー」では、各大学の研究者による研究紹介のほか、導入された大型計算機システムの紹介などを行いました。



▲駿河湾海洋DX先端拠点化計画 キックオフセレモニー(6月19日開催)

◀マリンインフォマティクス研究機構 開所式(4月11日開催)

入試広報NEWS

■進路イベントの日程
【8月～12月】が確定しました。
ー オープンキャンパス ー
8月17日⑨ 9月23日⑩
10月5日⑩ 10月26日⑩
12月13日⑨

高校生の皆さん、ぜひ参加をご検討ください。お待ちしております！



スポットライト がんばる理工科大生

高柳 翔 さん(大学院システム工学専攻(機械工学コース) 1年)

私は知能メカトロニクス研究室に所属しており、株式会社三共製作所、国立研究開発法人産業技術総合研究所と共同で、超精密姿勢計測技術および装置の開発を行っています。近年、自動車・航空機・医療用部品などの部品加工において、複雑自由曲面化や高精度化といった機能や価値の向上が求められているという背景があり、複雑な機械加工が可能である5軸加工機の内ワークを搭載する傾斜円テーブルの姿勢を精密に計測できる技術および装置を開発することで、加工性能向上のニーズに応えようと日々研究に勤しんでいます。

学部4年次には、日本機械学会の学生会卒業研究発表講演会に参加しました。初の学会発表ということもあり緊張したのですが、他大学の学生の発表からは多くの知見が得られ、有意義な時間を過ごすことができました。また、3年次には技術士第一次試験に合格しました。資格の勉強を通じて、4大力学・科学技術全般の基礎的な知識や技術者倫理について学ぶことができました。

今後はより一層研究に力を入れ、社会に貢献できる技術者を目指し精進していきたいと思います。



活躍する卒業生

株式会社しわく堂

金子 大海 さん

(大学院システム工学専攻
建築学コース修了)

学生時代は理工学部建築学科の田井幹夫研究室に所属し、掛川市でのまちづくり活動に携わりました。現地に移住し、住民の方々と日々コミュニケーションを重ねる中で、机上の論議だけでは見えてこない地域の

の実情に触れ、建築が社会に果たす役割を実感しました。

自分がやりたい建築をつくるのではなく、地域に求められる建築とは何かを考える視点を得たことは、今の私の設計姿勢の核になっています。

現在は香川県の設計事務所に勤務し、住宅や店舗、薬局などの設計に携わるほか、文化財建築の保存活用やイベント企画、耐震補強といった地域密着型の仕事にも多く関わっています。

地方での建築の仕事は、まちの医者のような役割を担う場面もあり、暮らしに深く寄り添う実感があります。今後は「こんなのがあったらいいね」という日常の対話から生まれる想いを、地域の仲間と共に形にしていって、そんな協働的な建築づくりに挑戦していきたいと考えています。



おじゃまします。

応用・計算調和解析研究室(コンピュータシステム学科)



本研究室では、画像信号を主たる研究対象に、符号化の理論研究から情報圧縮方式の開発までを扱ってきました。あらゆる情報はコンピュータの中では数字の並び(信号)で与えられます。信号を波の重ね合わせとして表現する数学的手法は、情報を解析し取捨選択する強力な道具となっています。2025年4月からは拠点静岡駅前キャンパスに移し、画像の超解像処理などを通じ仮想空間という新たな研究フィールドに学生と共に踏み込んでいます。ドローンで取得した映像を用いたソリューション開発、中学校・高等学校での情報教育のサポートなど、今後も画像・情報をキーワードに様々なテーマに取り組んでいます。

研究室学生からひとこと 武藤 慎翔 さん(情報学部 コンピュータシステム学科 4年)



情報学部では3年生の7月に研究室配属が行われます。研究室でゲームを行うときにも、キャラクタの輪郭周りにノイズが出るか、早い動きの時でも映像が美しいのは凄いとやっている教員に見守られながら卒業研究や進路活動に向き合っています。4月からの静岡駅前キャンパスでは、企業の方から直接指導を受ける機会も得るなど、皆が前向きに取り組んでいます。

研究室担当教員 芦澤 恵太 教授

プロフィール

静岡県清水市(現静岡市)出身。両親への気遣いから地元大学に進学するも、博士課程まで在学することになり傷を深めた。在学中に山籠もり修行を行った為に半年間超過。学部は競輪場のある街で、大学院はオートレース場、最初の就職は競馬場の近くで過ごし、現在は競艇のある街に居を構えています。毎週月曜と木曜に6個の数字を確認することを趣味に、一生懸命活動中。

同窓会
だより

新 同窓会評議員紹介

同窓会会員数 10,028名

この度、第31期卒業生の代表として同窓会評議員に任命されました、新見アビネです。今後は、同窓会評議員として、同窓会活動に積極的かつ誠実に取り組んでいきたいと思っています。

さて、私にとって同窓会という組織は、静岡理工科大学の関係者のみならず、地域の方々や地域一帯の活気を出すような存在になれたらベストだと思っています。そのようなことができるようにSISTIVAL(静岡理工科大学大学祭)時にあるホームカミングデーなどで同窓会に参加した方々のみならず、SISTIVAL自体を盛り上げられるようにイベント内容などを老若男女問わず楽しめられるようなものにできたらと思っています。

入ったばかりの私ですので、同窓会評議員の先輩方の胸を借りつつも、より一層同窓会を盛り上げることができればと思っています。今後とも同窓会活動へのご理解ご協力とご支援ご厚情を賜りますよう、宜しくお願いいたします。



同窓会評議員
新見 アビネ さん
(コンピュータシステム学科
卒業生)

後援会
だより

保護者懇談会の開催について

本学の保護者懇談会では、全体会と個別面談(希望者のみ)を開催しています。全体会では、後援会の活動状況及び、キャンパス内環境整備などの近況や計画に関する報告や、外部講師による講演会を行っています。また、個別面談では、助言教員より修学状況や就職活動状況、学生生活の様子などについてお話をさせていただくとともに、保護者の方からの相談を受けております。

昨年度の全体会では、日本学生支援機構スカラシップアドバイザーの久米啓子様より、「保護者と学生がともに知っておきたい奨学金制度(日本学生支援機構)について」をテーマにご講演いただきました。

2025年度の保護者懇談会については、前年度同様の開催方法を予定しております。詳細については、9月に送付する学納金納付書に案内文を同封させていただくか、Webポータルでお知らせいたします。



▲全体会における木村学長の大学紹介

イベント情報

9月20日⑨はやらまいか日和!

小学生向けと大人向けのイベントを同時日程で開催します。

お理工塾主催
夏のわくわく体験工房
(小学生対象)

3Dプリンタを使って
DIYを楽しもう

いずれも開催は午前、会場は大学(袋井市)で開催。詳細は本学HP等でご案内します!
※定員に限りがあるイベントなので、申込多数の場合は抽選となります。

読者アンケート&プレゼント

キャンパスニュースに関するアンケートにお答えいただくと、抽選で10名に記念品が当たります。なお抽選結果は賞品の発送をもって代えさせていただきます。

応募方法

応募フォームからアンケート項目に回答ください。▶
【回答期限: 10月31日】



編集 後記

今号のキャンパスニュースでは、令和8年4月から始まる本学の学部学科再編の特集しました。「学科」から「学系」への転換や、コース選択制の導入、アントレプレナーシップ教育の強化など、学生一人ひとりが自分らしい学びを実現できる柔軟な教育体制を整えることが目的です。そして今号では、学生・卒業生・教員による多彩な活動も数多く紹介しました。それぞれの立場から「学び」と「社会」をつなぐ姿が印象的です。大学という場が「人が育つ場」として機能していることを、紙面を通して改めて実感します。読者の皆さまが、本学の今とこれからの一層の関心を寄せていただけたら幸いです。最後までお読みいただき、ありがとうございました。(H)

静岡理工科大学キャンパスニュース

令和7年7月31日発行 企画・編集・発行/静岡理工科大学 大学広報委員会
〒437-8555 静岡県袋井市豊沢2200-2 TEL.0538-45-0111 FAX.0538-45-0110
https://www.sist.ac.jp E-mail:shakai@sist.ac.jp